



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年04月26日 第1017号「週刊五十嵐レポート」

戦略って、こういうことか

大企業のビジネスマンが資格を取得し、4年前に士業として独立起業した。独立した当初は戦略も何もなかった。何でも仕事は取りに行った。

彼の年間労働時間は3,600～3,800時間。中小企業の平均労働時間は1,850時間。創業間もない時や競争条件の不利な中小企業の社長は「時間戦略」を考え、時間を拡大する必要がある。1. 必勝の3,200時間。2. 圧勝の3,700時間。3. 決死型の4,140時間。4. ベンチャー型の4,500時間。

4年経った今、ようやく大企業時代の年収を超えた。社内の作業時間に多くの時間を取られている。スタッフは皆アルバイト。マニュアル化してどんどん作業をスタッフに振っていき、自分はお客活動に時間を投入する。戦略というものが徐々にわかり始めてきた。経営は売上ではない。強い商品作り、強い営業地域作りということがピンと来るようになってきた。

ある地域だけ集中して、特定の業務を行っている。同業者がその仕事をやりたがらない。その地域から来る仕事は断らずに全て受けた。そうすると何が起きたかという、その地域の特定の仕事は全て自分の所に依頼が来た。「戦略って、こういうことか。コストは全くなからないのに受注が増えていく」。

新しい顧客を作るのに多くの経費がかかる。しかし経費はかからないのに新しい顧客が増える。特定の地域に顧客を集中して作ることで利益性が良くなることを「市場占有率の原則」と呼ばれている。これは特定の何かに集中したことで生じる効率上昇である。

独立当初は、営業地域はあまり考えずに広域に活動をしていた。徐々に地元重点を置くようになり、営業地域を絞った。そして数あるサービスの中で同業者がやりたがらない業務を重点的に行った結果、集中して仕事に来るようになった。今はダントツの一番になることが目標になり、周辺業務へと拡大していく。

後発として参入しても、多くの隙間・チャンスがある。それに気づき、時間を投入できるか。やはり経営は面白い。

4月のNHKEテレビ「100分de名著」は渋沢栄一の「論語と算盤」。

論語に「吾、十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳に従う。七十にして心の欲する所に従いてのりをこえず」。

「志」と「天命」。この2つの違いは、自分の可能性に目を向けるか、それとも、自分の限界に目を向けるか、という視点の違いから生まれる。

たとえば、十代の若者は、「自分はこれから何でもできるし、何にでもなれる」と希望に胸を膨らます。自分が持つ大きな可能性から進む道を見つけていく。これが孔子のいう「立志」。

一方、この若者が30年後、「自分にできること、できないことは見えてきた。出来ることのなかから、社会に貢献していこう」と決意する。これが「天命を知る」こと。

渋沢栄一は、「政界に向いていないことに気がつき、商工業の発達を図ることが自分が進むべき道と分かった」。

私は今、「天命」と向き合っている。



一口メモ
知識

たった一切れで

ふだんの食事そのものを、瞑想として体験してみてください。

きっと新発見があります。いままで経験したことのない、食べ物の微細な味がわかります。

ニンジン一切れでも、食べる行為をよく確認しながらいただくと、素材の本来もっている味・香り・感触が、びっくりするほど感じられます。

たった一切れでも、とてつもない幸福感、安らぎを与えてくれます。体の細胞一つひとつが感動します。そして、たちまち健康になります。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

